

### 1.3 踏みつけによる植生の後退

市民による保全活動はこれまでの里山林経営とは異なり、林内に入って管理する回数は飛躍的に多くなるのが特徴です。

また林内に食事やミーティングをする場所を設けることが普通です。こうなると、土が踏み固められ、植生が後退します。早ければ2～3年で植生が後退する状態となります。さらに裸地が形成されることもしばしば生じます。したがって集中的に活動する場所を時々変えるか、反対に一定の場所の植生についてはあきらめ、他の場所の保全に集中するようにします。もし貴重な植物があるばあいには移植する方法をとります。

### 1.4 後生枝の考え方

コナラやクヌギは幹（樹皮）から芽を出し、新しい枝を作ることがしばしばあります。また暗い林内で衰弱した個体にも顕著にあらわれます。

一方、過度の間伐を行った場合、幹に光が当たると後生枝の発生が盛んになります。密生し大きくなったササを急に刈り払うと、こうした現象が一時的におきます。また木の端の木では後生枝は普通に出てきて林内気候を緩和させるはたらきがあります。後生枝をなくすことは困難ですが林内林照度に注意することでその発生は少なくなります。後生枝はすっきりした林内景観を作るには不都合です。また木材生産の場合は大きな問題です。



林床植生が後退した



簡易な柵を作るだけで植生保護は有効

#### 後生枝の生じやすい樹種

主な要因	樹種名
光	コナラ、クヌギ、イヌシデ サクラ類、マユミ、アカシデ
衰弱	エゴノキ

#### 比較的生じにくい樹種

ホオノキ、ケヤキ、ミズキ



幹の途中に生じた後生枝（コナラ）